

平成 30 年 5 月 25 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2017

課題番号：25780121

研究課題名(和文) グローバル規範の生成・変容・消滅メカニズムに関する研究

研究課題名(英文) Research on Formation, Change, and Demise of Global Norms

研究代表者

足立 研幾 (ADACHI, Kenki)

立命館大学・国際関係学部・教授

研究者番号：70361300

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：規範の拡散成功事例のみに焦点を当てがちな既存の研究に対し、本研究は、規範の拡散失敗事例や変容事例の分析を通して、規範の拡散成功、拡散失敗、既存規範の変容、消滅を包括的にとらえる分析視角を構築した。具体的には、常に複数の規範が衝突したり、統合されたりしつつ、社会における規範は変容し続けているととらえる「変容し続ける規範」という分析視角を提示した。また、本分析視角を用いて、19世紀から現在にわたる通常兵器や化学兵器をめぐる規範の変容をとらえる事例研究を行った。本分析視角により、短期的な規範の拡散や拡散失敗に焦点をあてていては見落としがちな長期的トレンドをうまくとらえることができるようになった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project is to create analytical framework to analyze the formation, diffusion, change, un-diffusion, and demise of global norms. By analyzing the cases where new norms failed to diffuse and existing norms changed, I proposed an original analytical framework that sees norms not as a finished product but as a prototype product which continues to change. With this analytical framework, I analyzed the transformation of the norm on conventional weapons as well as the norm on chemical weapon from 19th century to present.

研究分野：国際政治学

キーワード：規範 規範伝播 規範変容 変容し続ける規範 通常兵器 化学兵器

1. 研究開始当初の背景

近年、国際関係における規範研究は急速に進展しつつある。冷戦終焉をネオ・リアリズム、ネオ・リベラリズムが予想できず、また十分に説明できなかったことから、規範やアイデンティティなどに改めて注目が集まるようになってきた。特に、いかに特定の規範が広まり、アクターの行動を規定するようになったのかという点に関しては、着実に実証研究が積み重ねられている。Jeffrey Legro、Richard Price、Ethan Nadelman によってなされている空爆、化学兵器、捕鯨、麻薬、奴隷などの禁止規範に関する実証研究がそうした例である。応募者も対地雷禁止規範の拡散過程について研究を進めており、その成果の一部を書籍として出版している。

こうした実証研究を踏まえ、規範拡散メカニズムに関する理論研究も進んでいる。その代表的存在は、新しい規範が生まれ、成功裏に広まるメカニズムを明らかにした Martha Finnemore と Kathryn Sikkink による「規範ライフサイクル論」であろう。それをベースにした規範拡散戦略に関する研究も進展しつつある。これらは、新たな規範を広めようとするアクターである Norm Entrepreneur の活動に注目するものである。これまでの国際関係における規範研究は、規範の拡散成功の事例に過度に偏っていた。そのおゆえ、事例研究をベースに構築されてきた理論研究にも歪みがある可能性が高い。Norm Entrepreneur の重要性は否定しないものの、その重要性が過度に強調されているきらいがある。

特定の規範がなぜ広まらなかったのかを問う研究は少ない。Clifford Bob や R. Charli Carpenter は、この点に焦点を当てる数少ない研究者である。Bob によれば、新たな規範は、当該問題で権威的な地位にある団体である Gate-keeper に受け入れられなければ、NGO などによるキャンペーンが大々的に行われず、拡散しないという。Carpenter は NGO ネットワーク内の政治力学の分析を通して、新しく生まれた規範が NGO ネットワークに取り上げられることなく消えていく様子を分析している。しかし、新たな規範が、NGO ネットワーク内での政治を生き抜き、Gate-keeper に採択され大々的な国際キャンペーンを展開されても、国際的に広まるとは限らない。たとえば、途上国の病に苦しむ患者に医薬品を届けるため、「医薬品を特許の例外にすべき」という規範が唱えられると、当該規範は Gate-keeper である主要 NGO や世界保健機関などの国際機関に採用された。そして大々的な国際キャンペーンが行われたにもかかわらず、当該規範が国際的に支配的になることはなかった。ただし、キャンペーンを受けて、既存の規範にも一定の変容がみられた。

応募者は、規範の拡散、レジーム間相互作用、レジーム間相互作用の促進アクター等に関する研究を進める中で、既存の規範を護持

しようとするアクターの存在 (Norm Protector) の重要性を認識するようになった。新たな規範が広まる場合と広まらない場合の違い、あるいは、新たな規範の挑戦を受けて既存の規範が変容する現象を説明する際に、Norm Protector の活動がカギとなるのではないか。そのような仮説のもと医薬品特許問題を事例として分析したのが、2012 年の International Studies Association (ISA) の年次研究大会で報告したペーパーである。ISA の会場での反応や、規範研究を国際的にリードしてきた上記の Bob や Price などと意見交換を受け、応募者は、既存の規範を護持しようとする Norm Protector と、新たな規範を広めようとする Norm Entrepreneur の相互作用に注目することで、新たな規範の拡散成功と拡散失敗、さらには既存規範の消滅について、包括的に分析することができるのではないかとこの着想を固めるに至った。

2. 研究の目的

規範の拡散失敗に関する研究は従来あまり行われていなかった。先に挙げた Bob や Carpenter の研究や、応募者による医薬品特許の研究がそうした数少ない研究である。規範の消滅に関する研究についてはさらに数が少ない。しかし、国際的に広く受け入れられていると思われていた規範が消滅するケースは実際に存在する。潜水艦への攻撃禁止規範や傭兵忌避規範などの消滅はそうした事例である。あるいは、拷問禁止規範、暗殺禁止規範などは、2001 年の同時多発テロ事件以降大きく揺らぎ始め、アメリカにおいては消滅したと論じるものもいる。これらの事例については、Diana Panke と Ulrich Petersohn、あるいは Ryder McKeown による先駆的研究が存在する。しかし、これらは規範を取り巻く環境や個別の規範の性質に焦点を当てていたり、あるいは「規範のライフサイクル論」を裏返しにした議論を行うにとどまっている。それぞれ興味深い分析を含むものの、理論的な射程は限定的であり、規範の消滅に関する議論の一般化を試みるものではない。ましてや、規範の消滅に加え、新たな規範の拡散成功、拡散失敗をも射程にとらえ、規範を分析する包括的な枠組みを構築しなすといった問題意識を有するものではない。

本研究では、これまで十分に研究されてこなかった、新たな規範の拡散失敗、既存規範の変容、消滅に関する事例研究を行う。そして、従来焦点を当てられてこなかったそれらの事例をも射程に含める、より包括的な分析枠組み構築を試みる。このような作業を通して、従来の規範に関する事例研究、及び理論研究に潜む偏りを正すこと、それが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究では、まず応募者の研究蓄積がある対地雷禁止規範の形成過程を中心に、先行

研究の取り上げてきた事例について、Norm Protector と Norm Entrepreneur の相互作用という観点から整理し直す。次いで、新たな規範が唱えられたものの、十分に広まらなかった事例について、応募者自身の扱った医薬品特許をめぐる問題に加えて、焼夷弾をめぐる問題などを取り上げ、同様の分析枠組みのもとで研究を進める。

さらに、これまで先行研究がほとんどない規範の消滅について、暗殺忌避規範などを取り上げる。その際も、同様の分析枠組みのもと、当該規範の消滅や弱体化について事例研究を進め、規範消滅のメカニズムを明らかにする。

最終的には、これら事例研究を踏まえて、分析枠組みの精緻化に努め、新たな規範の拡散成功、拡散失敗、規範変容、既存規範の消滅に関する包括的な分析枠組みを構築したい。

4. 研究成果

規範の拡散に成功した事例のみに焦点を当てがちな既存の研究に対し、本研究は、規範の拡散失敗事例や変容事例の分析を通して、規範の拡散成功、拡散失敗、既存規範の変容、消滅を包括的にとらえる分析視角を構築した。

先行研究のレビューを踏まえて、まずは新たな規範を拡散しようとするアクター(規範起業家)だけではなく、既存の規範を守ろうとするアクター(規範守護者)に注目する必要性を説く分析枠組みを提示するとともに、その分析枠組みを用いた事例研究を複数行い、それを学術論文、などとして発表した。また先行研究のレビューや、の成果を踏まえて、さらに理論的に精緻化し、通常兵器をめぐる問題を包括的に研究する単著(図書)を刊行した。

その後も、さらに消滅した規範、拡散に失敗した規範の分析を続ける中で、単に規範起業家と規範守護者の相互作用としてとらえるのではなく、常に複数の規範が衝突したり、統合されたりしつつ、社会における規範は変容し続けているととらえる「変容し続ける規範」という分析視角へと、理論枠組みを精緻化した。

本研究課題の集大成として、この分析視角を用いて、19世紀から現在にわたる通常兵器や化学兵器をめぐる規範の変容をとらえる事例研究を進めた。その成果は、学術論文や、図書として刊行した。本分析視角により、短期的な規範の拡散や拡散失敗に焦点をあてて見落としがちな長期的トレンドをうまくとらえることができるようになったと思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文](計6件)

足立 研幾、「常備軍なきセキュリティ・ガバナンス コスタリカの事例」『立命館国際研究』第30巻第4号、2018年、23-43頁、査読なし。

Kenki Adachi, “Development of Conventional Weapons Governance: NGOs, Policymakers, and Gatekeepers in Institutional Interplay,” *Cosmopolis*, No.11, 2017, pp.1-12、査読あり。

足立 研幾、「セキュリティガバナンス論の新地平」『立命館大学人文社会科学研究所紀要』第109号、2016年、1-6頁、査読なし。

足立 研幾、「毒禁止規範から化学兵器禁止規範へ 『変容し続ける規範』という分析視角による事例研究」『グローバル・ガバナンス』第2号、2015年、1-14頁、査読あり。

足立 研幾、「新たな規範の伝播失敗 規範起業家と規範守護者の相互作用から」『国際政治』第176号、2014年、1-13頁、査読あり。

Kenki Adachi, “Countering Norm Creation: Tug-of-War between Norm Entrepreneurs and Norm Protectors on Access to Essential Medicines,” *The Ritsumeikan Journal of International Studies*, Vol.26, No.1, 2013, pp.1-13、査読なし。

[学会発表](計7件)

足立 研幾、「安全保障分野における NGO 国連における活動の現状と課題」日本国際連合学会、パネルディスカッション「変革期の国連と国際協力の新たなパラダイム」、2017年

足立 研幾、「グローバル・ガバナンス論再考 規範研究の視点から」、グローバル・ガバナンス学会、共通論題「グローバル・ガバナンス論の再構築」、2015年
Kenki Adachi, “Resisting the Ban of Cluster Munitions: Tug-of-War between Norm Entrepreneurs and Norm Antipreneurs,” *International Studies Association 56th Annual Conference*, 2015

足立 研幾、「パワーシフトと軍縮・軍備管理レジーム」、日本国際政治学会、部会8「グローバル化時代における覇権理論の再検討」、2014年

Kenki Adachi, “Deter and Socialize: The Role of the United States in Asia-Pacific,” *United States Foreign Policy in International Perspective*, 2014

Kenki Adachi, “When Norms Fail to

Diffuse: Interaction between Norm Entrepreneurs and Norm Protectors,” International Studies Association 55th Annual Convention, 2014
Kenki Adachi, “Strategies of Norm Anti-preneurs on Anti-Personnel Landmines and Patents on Medicine,” International Studies Association sponsored Pre-workshop, Norm Anti-Preneurs’: Enhancing Scholarly Understanding of Resistance to Global Normative and Legal Change, 2014

〔図書〕(計9 件)

山本武彦・庄司真理子、足立研幾、他『軍縮・軍備管理』志學社、2017年、342頁(169-188)。

坂本治也、足立研幾、他『市民社会論：理論と実証の最前線』法律文化社、2017年、348頁(241-257)。

Alan Bloomfield and Shirley Scott, Kenki Adachi, et. al., *Norm Antipreneurs: The Politics of Resistance to Global Normative Change*, Routledge, 2016, 274(53-70)。

板木雅彦、本名純、山下範久、足立研幾、他『プレリユード国際関係学』東信堂、2016年、296頁(3-18)。

足立研幾『国際政治と規範 国際社会の発展と兵器使用をめぐる規範の変容』有信堂高文社、2015年、244頁。

吉川元、六鹿茂夫、望月康恵、首藤もと子、足立研幾、他『グローバル・ガヴァナンス論』法律文化社、2014年、314頁(230-243)。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

足立 研幾 (ADACHI, Kenki)

立命館大学・国際関係学部・教授

研究者番号：70361300

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()